

前線における岩屋ダムの防災操作について(速報)  
(馬瀬川(東沓部地点)の水位を0.9m低減)

独立行政法人水資源機構の管理する岩屋ダムでは平成27年10月1日～2日の発達した低気圧にともなう前線の影響により、岩屋ダム流域で時間最大雨量17ミリ(2日1時から2時まで)、降り始め(1日10時)から2日7時までの流域平均総雨量は117ミリを記録しました。

この降雨により、岩屋ダム貯水池に流れ込む水の量(流入量)は、最大毎秒約355立方メートルに達しました。この流入量に対し、毎秒約253立方メートルをダムに貯めて、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

この結果、ダム下流にある東沓部地点(下流基準点)において、約0.9メートル水位を低下させたと推測されます。

※防災操作とは、大雨などの際、流れ込む水の一部を一時的に貯め込むことでダムから下流へ流す水量を減らし、下流の水位を低減させることです。

※今回の発表は速報値であり、今後の精査によって数値等が変わることがあります。

平成27年10月2日



独立行政法人 水資源機構  
岩屋ダム管理所

発表記者クラブ

中日新聞社萩原通信局	名古屋テレビ 高山通信部
岐阜新聞社下呂支局	岐阜放送高山放送局
読売新聞社下呂通信部	CBC 中部日本放送 高山支局
朝日新聞社高山支局	中京テレビ岐阜支局
毎日新聞社岐阜支局高山通信部	東海テレビ高山通信部
NHK 高山支局	シーシーエヌ(株)

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 岩屋ダム管理所 所長代理 佐藤 隆徳

電話：0576-35-2339

## お 知 ら せ ( 速 報 )

件 名  
前線における岩屋ダムの防災操作について

### 概 要

平成 27 年 10 月 1 日～2 日、発達した低気圧にともなう前線の影響により岩屋ダム流域で激しい降雨に見舞われました。

木曾川水系馬瀬川の岩屋ダム上流域では、10 月 1 日 10 時の降り始めから 2 日 7 時にかけて流域平均総雨量 117 ミリを記録しました。この間、2 日 2 時に 1 時間最大雨量 17 ミリを記録しました。

この降雨により、岩屋ダムの流入量は 2 日 4 時 30 分に洪水流量(毎秒 300 立方メートル)に達したため防災操作を開始しました。2 日 5 時 14 分には流入量の最大は毎秒 355 立方メートルに達し、この流入量に対し毎秒 253 立方メートルをダムに貯め込み、下流の河川水位の低下をはかりました。

	流域平均 総雨量	ダムへの流入量が 最大となった時刻	同時刻における ダムへの流入量	同時刻における ダムの放流量	同時刻におけ るダム貯留量
いわや 岩屋ダム	117mm	平成27年10月2日 5時14分	毎秒355 m <sup>3</sup>	毎秒 102m <sup>3</sup>	毎秒253m <sup>3</sup>

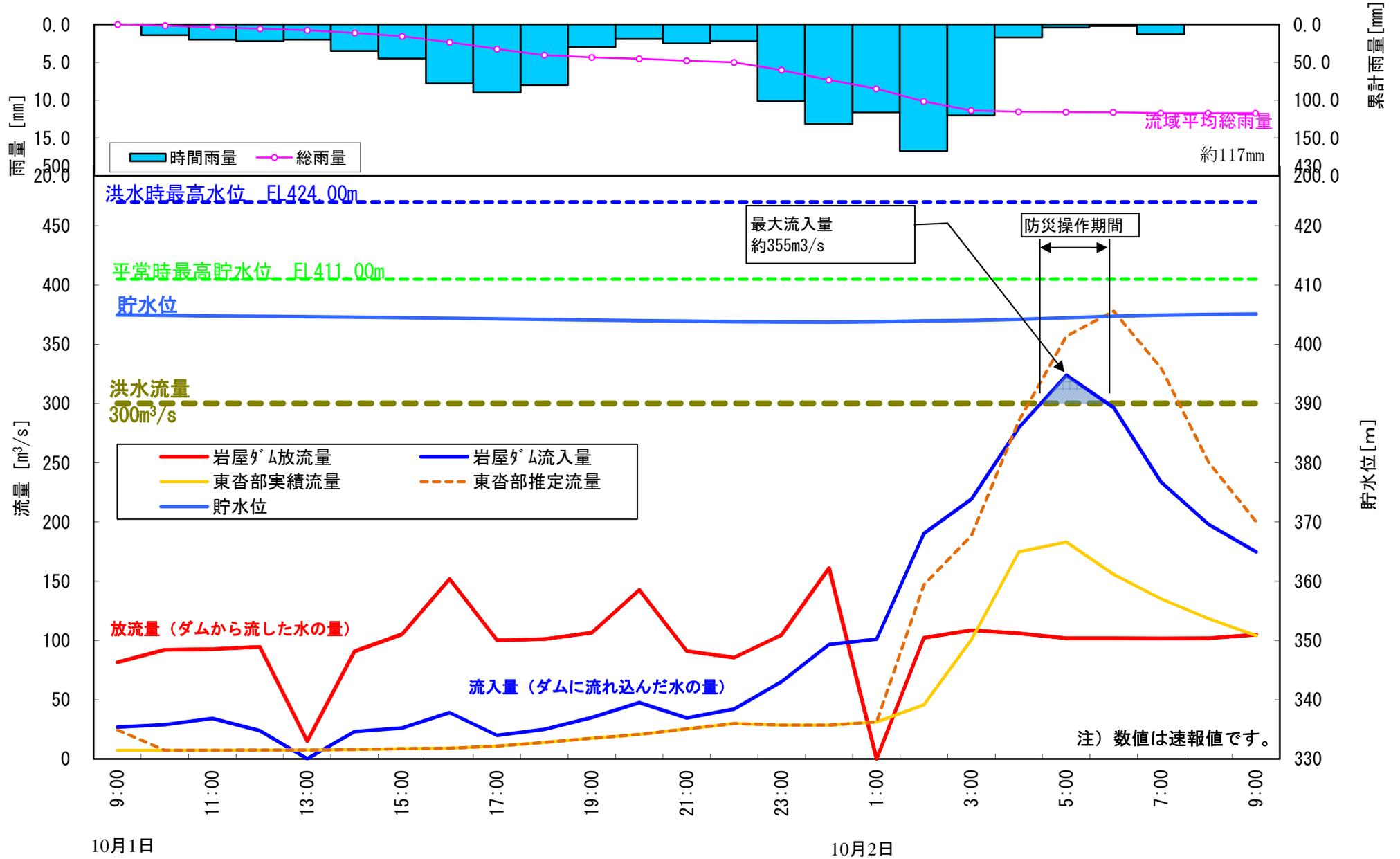
今回の防災操作により、ダム下流にある<sup>ひがしくつべ</sup>東沓部地点(下流基準点)では、約 0.9 メートルの水位低下効果があったと推定されます。

<sup>ひがしくつべ</sup> 東沓部地点※の水位が 最高水位となった時刻	同時刻における <sup>ひがしくつべ</sup> 東沓部地点の河川水位	ダムがなかった場合の 同地点の推定最高水位	水位低減効果
平成27年10月2日 5時00分	2.8m	3.7m	0.9m

※ <sup>ひがしくつべ</sup>東沓部地点 ダム下流約9.3km、飛驒川本川合流前約7.5kmの地点

<sup>かなやまちょうひがしくつべ</sup>  
所在地 : 下呂市金山町東沓部字前田会津 1458

# 岩屋ダム防災操作 [平成27年10月2日洪水]



# 岩屋ダムの水位低減効果（東沓部地点）

金山町 東沓部

金山町 戸部  
(県道256号線側)

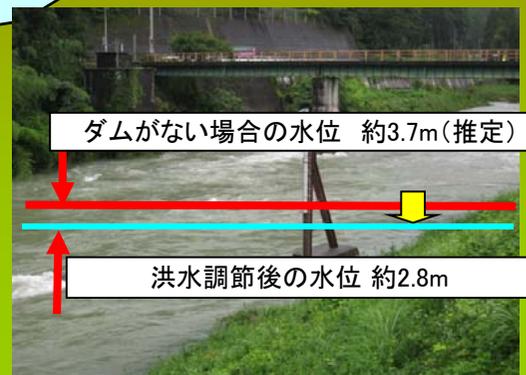
ダムによる水位低減効果 約0.9m

ダムがない場合の水位 約3.7m (推定)

水位低減後の水位 約2.8m

平常時の平均水位 約1.0m

平常時の河川状況 (東沓部)



ダムがない場合の水位 約3.7m (推定)

洪水調節後の水位 約2.8m

※東沓部地点: 岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本川合流前約7.5kmの地点  
(住所: 岐阜県下呂市金山町東沓部字前田会津1458)